

【2023年度】放課後等デイサービス事業所における自己評価(公表)

公表：2024年3月9日 職員数4名で会議

事業所名 放課後クラブ ルンバルンバ原町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	0	整理整頓を心がけている	外活動も取り入れていく
	2	職員の配置数は適切である	3	0	担当者を決めている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	0		療育環境などの情報発信をホームページ等とする
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	0	毎朝打ち合わせ見える可している	職員間でサポートしあえるように打ち合わせをする
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0		引き渡し時に適切な報告をするように心がけている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	0		LINE連絡帳にて掲示の案内をする
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	日々打ち合わせ等で自己評価を行い業務改善している	今後検討する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	0	一人1台のiPadを配布している	学んだことを現場で生かせるようにしていく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	0	日々打ち合わせで確認している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	0	LITALICOの支援ツールを活用している	現状ツールの発展方法を模索していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	0	担当を決めて児童発達支援管理責任者を中心に行なっている	年間を通じプログラム準備等にかかる時間の削減も検討する
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	0	支援の目を職員が学び工夫してプログラムを立てている	提供方法を考えて提示する
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	0	日々PDCAで改善している	年間スケジュールを作成して前倒しで準備できるようにする
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	0	日々PDCAで改善している	来年度から始まる支援の5領域を職員で再確認すること
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	0	毎朝昨日の振り返りと今日の打ち合わせを行う	職員同士で進行できるように要点進行を指導する

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	0	毎朝昨日の振り返りと今日の打ち合わせを行う	職員同士で進行できるように要点進行を指導する
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	0	毎朝昨日の振り返りと今日の打ち合わせを行う	一人1台のiPad活用時間の把握をすること
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	0	管理者など計画に携わる職員が進行している	5領域チェックリストを作成しわかりやすく可視化する
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	3	0	年間計画でめあてを明確にしている	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	0	計画作成に関して職員から情報収集している	オンライン参加など柔軟な参加方法を検討する
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	0	年度替わり週末などに連絡調整を行なっている	トラブル発生時は趣味レーションして学校と連携する
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	-	-		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	0		電話やオンラインでの情報共有など検討する
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	0		電話やオンラインでの情報共有など検討する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0	LITALICOの支援方法動画を活用し職員教育している	職員の能力向上評価を適時行う
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3		積極的に外出し受入機会を探っていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	3		参加を検討する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	0	引き渡し時に様子を報告している	保護者との意思疎通や関わりを積極的に持ち、疑問などをその場で気軽に聞ける関係性になるようにこちらから投げかけていく
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	0	引き渡し時に様子を報告している	事業所参観日等を定期的に設け、こどものルンパでの様子など見てもらい、自宅等での様子の違いなど観察してもらうことから始める	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	0		契約時に行なっているが、保護者との意思疎通や関わりを積極的に持ち、疑問などをその場で気軽に聞ける関係性になるようにこちらから投げかけていく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	1		全職員が担当できないため窓口を設けるなど検討
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3	控えたい保護者多く開催は予定できない	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	0	職員の報連相を毎朝の打ち合わせで行なっている	保護者との意思疎通や関わりを積極的に持ち、疑問などをその場で気軽に聞ける関係性になるようにこちらから投げかけていく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	0		文字などが見やすいように、LINEと紙を使い分ける
	35	個人情報に十分注意している	3	0	リストにしてブログ更新時に注意している	契約時に確認しているが、面談等でも再度保護者から意見などを聴取する。また、LINE連絡帳についても保護者へ確認を取る
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	0		紙でお知らせするようにする
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	0	商店街などを見学訪問し、存在を伝えている	同区内で同年代の児童が集まる場面などにいき交流等を行う。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	0		BCPをホームページにて掲示して情報提供する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	0	年間スケジュールを組んで目的を明確にしている	地域の消防・警察などへ出向いて事業所ではできない訓練を経験させることも検討する
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	0	LITALICO動画研修を導入している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	0	契約時に説明を必ず行なって計画に反映させている	保護者面談時などでも必要に応じて説明をする
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	0	契約時に保護者へ用紙提出で確認	毎年更新のフェイスシートにて保護者に記入してもらう
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	0	事例を職員打ち合わせで話す。振り返りの中で改善案など共有	必要に応じて面談時に報告する